

令和元年度 科目名 ( 子どもの発達と保育 )

1 対象年次、単位数、使用教科書

2年次～4年次(選択) 3単位

教科書：子どもの発達と保育(実教出版)

2 科目の目標

子どもの発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する「知識と技術を習得させる。  
子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。

3 評価規準(何を評価するか)

発達と発育について理解している。生命誕生のしくみ、母体の健康管理の重要性、新生時期の特徴について理解している。

子どもの身体発達及び生理的特徴について理解している。

発達の原則を知ること、個人差があることや、発達の順序について理解している。

子どもの心の発達について理解するとともに、望ましい養育態度について説明できる。

乳幼児栄養や離乳の意義、生活習慣形成について理解している。

乳幼児の病気の特徴、予防接種について理解している。

保育の意義と人間の心の発達について理解している。

児童福祉に関する施策について正しく理解している。

4 評価基準(どんな方法で評価するか)

レポートの評価規準をもとに、5段階で総合的に評価を行う。総合的な評価が1の場合、再提出とする。再提出により合格した場合の評価は3を基本とする。なお、上記評価規準のいずれかの評価が極めて低い場合は、再提出とすることがある。その場合、再提出により合格した場合の評価は3以上とする。

5 試験範囲と試験による評価基準

R1～R3の範囲で7月試験、R4～R6の範囲で10月試験、R7～R9の範囲で1月試験を実施。なお、39点以下については再試験とする。

再試験を繰り返してもなお基準点(30点)に達しない場合は単位認定しない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングは、生徒の質問に個別に対応する。

乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得させる。

乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児にかかわる意欲や能力を身につけさせる。

シラバス(学習内容、年間指導計画および評価規準・評価基準)

R	項目	内容	教科書	時期
1	発達と乳幼児期の意義 発達と保育環境 児童観と発達観	人間の発達を培う大事な時期である乳幼児期の意義について 「育つ力」を引き出す環境について	8～18	5月上旬
2	子どもの発育	受精卵から胎児へ、胎児から新生児期・乳幼児期へと続く人の発育の課程について	20～34	5月下旬
3	子どもの発育	受精卵から胎児へ、胎児から新生児期・乳幼児期へと続く人の発育の課程について	20～34	6月中旬
4	子どもの精神発達	運動機能や感覚機能、知的能力、言語機能、情緒などの側面から子どもの心の発達について	36～45	7月上旬
5	人間関係の発達	子どもの心の安心、人との関係について	46～54	8月下旬
6	生活と養護 子どもの遊び 生活習慣の形成	子どもの発達に応じた養護について 遊びの役割について 生活習慣を身につけるための援助の方法について	55～91	9月中旬
7	健康管理と事故防止	子どもの健康と安全を守るためポイントについて	92～100	10月中旬
8	保育の意義と重要性 家庭保育と集団保育 保育の方法	子どもが集団で過ごす意義について 取り巻く状況が変わっているなか、求められる保育について	101～122	11月上旬
9	子どもの福祉 子育て支援	子どもに関する法律や制度や子どもが健全に育つための理念について 求められる支援について	124～141	11月下旬